

ミクロ経済学とマクロ経済学

1 現代経済学の基礎となる主要な著作

イギリス古典派

Adam Smith (1776) *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*.
『国富論』

David Ricardo (1817) *On the Principles of Political Economy, and Taxation*.
『経済学および課税の原理』

John Stuart Mill (1848) *Principles of Political Economy with Some of their Applications to Social Philosophy*.
『経済学原理』

効用と需要供給理論によるイギリス古典派経済学の新しい展開

Alfred Marshall (1890) *Principles of Economics*.
『経済学原理』

効用概念に基づく資源配分と価格の理論

William Stanley Jevons (1871) *The Theory of Political Economy*.
『経済学の理論』

Carl Menger (1871) *Grundsätze der Volkswirtschaftslehre*.
『国民経済学原理』

Marie Esprit Léon Walras (1874–77) *Éléments d'économie politique pure ou théorie de la richesse sociale*.
『純粋経済学要論』

現代マクロ経済学の発端

John Maynard Keynes (1936) *The General Theory of Employment Interest and Money*.
『雇用，利子および貨幣の一般理論』

資本主義経済の包括的な分析

Karl Marx (1867, 1885, 1894) *Das Kapital: Kritik der politischen Oekonomie*.
『資本論』

2 ミクロ経済学とマクロ経済学の問題区分

2.1 ケインズ『一般理論』の見方

A. 従来の経済学原理の主要問題： 資源配分の決定

利用される資源量は所与として

1. 異なる用途への資源の配分
2. 資源への報酬と生産物の価値

の決定を考える．リカードの伝統に従う経済学．

Political Economy you think is an enquiry into the nature and causes of wealth — I think it should be called an enquiry into the laws which determine the division of the produce of industry amongst the classes who concur in its formation. No law can be laid down respecting quantity, but a tolerably correct one can be laid down respecting proportions. Every day I am more satisfied that the former enquiry is vain and delusive, and the latter only the true objects of the science.

Ricardo's letter to Malthus, 9 October 1820,
quoted in *The General Theory* by Keynes.

B. 『一般理論』の主要問題： 資源利用水準の決定

実際に利用される資源の量の決定を考える．主に労働力の雇用の問題．

2.2 現代経済学での問題区分

A ミクロ経済学 資源配分の原理

1. 資源配分の決定

生産配分： 各生産単位への，生産のための資源の配分

消費配分： 各消費単位への，消費のための生産物の配分

2. 価格の決定

生産物の価格

生産要素の価格 —— 所得分配の決定

B. マクロ経済学 経済変動の原理

1. 資源の利用水準の決定

労働雇用量

資本ストックの稼働水準

2. 経済変動の説明（主に集計量による。）生産量，雇用量，資本ストック，物価，利子率

景気変動

経済成長 —— 労働力と資本ストックの増加による生産物の増加

3 ミクロ経済学，マクロ経済学に共通の対象としての市場経済

3.1 市場経済の特徴

市場と計画

市場： 分権的意思決定と市場

計画： 集権的意思決定と指令

価格の働き

希少性の概念 欲求，効用，経済財，自由財

価格と需要供給

3.2 市場の分類

1. 純粹競争市場
2. 独占市場
3. 寡占市場
4. 独占的競争市場

4 経済理論と経済の現実

4.1 経済学の構成要素

研究方法による区分

経済分析（経済史，統計，理論）

経済社会学

political economy économie politique（仏），politische Ökonomie（独），経済学（日）

1. 経済理論，純粹経済学
2. 国家の学，経済政策学
3. 政府の行動，政治機構，人々の行動を決める考え方の傾向

4.2 経済学の専門化

分析方法の専門化 —— 経済の現実から離れる部分

専門家集団の形成 —— 学会，専門誌，大学教育

参考文献

ケインズ，塩野谷祐一訳（1995）『雇用・利子および貨幣の一般理論』東京：東洋経済新報社．
第1章，第2章．

マンキュー，足立英之他訳（2000，2001）『経済学』東京：東洋経済新報社．第1章，第2章．

Joseph A. Schumpeter (1954) *History of Economic Analysis*. New York: Oxford University Press. (東畑精一訳『経済分析の歴史』東京：岩波書店) 第I部，第1章，第2章．